

私保達しませ

No.49

Contents

- 研究大会.....2
- こんな活動やってます...8
- フレッシュ先生の紹介....6
- 新加盟園の紹介.....10

子どもの育ちを支える
～保育リボン～



「安来千軒 名の出たところ 社日桜に十神山」
と民謡安来節に唄われたように、社日公園は島根県でも有数の桜の名所です。

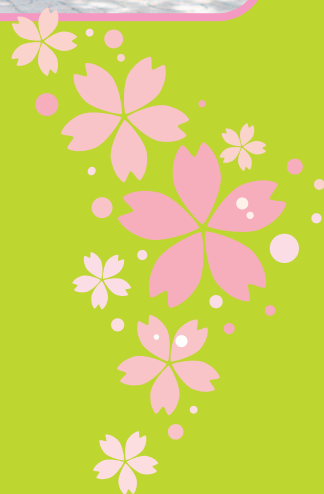
春には満開の桜の下、いきいきとあそぶ様子や、
風に舞う桜の花びらを追いかけて捕まえようとする
子ども達の姿もあります。

初夏になれば、公園内の池で友だちと協力しあ
ってザリガニ釣りを楽しんでいます。子ども達は四
季折々の自然の中でのびのびとからだを動かして
あそび、楽しかった思い出と共に豊かな感性を育ん
でいます。

みゆき保育園 園長 和田句子



楽しいね!!



<http://www.sweet-house.jp/shimane-shihoren>



3. 保育所における食育に関する指針

保育所における食育に関する指針に、「食育」の目標として、現在を最もよく生き、かつ、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことが挙げられています。食育指針では、3歳以上の子どもについては「食を営む力」の基礎を培うための5つの項目①食と健康②食と人間関係③食と文化④いのちの育ちと食⑤料理と食が示されています。

4. 食育指針「食育」の目標と目指す子どもの姿

当園では、「食を営む力」を、「豊かなくらしを営める力」ととらえ、目指す子どもの姿を次のように考えました。

・目指す子どもの姿（ ）：食育指針に示された5つの柱の中で該当する部分

- ①メリハリのある生活リズムを過ごす子ども（食と健康：①）
- ②人と一緒に食べるのが楽しい子ども（食と人間関係：②）
- ③食べ物の育ちに触れて食べたいものが増える子ども（いのちの育ちと食：④）
- ④食事作りの一連の過程にかかわろうとする子ども（料理と食、食と文化：⑤、③）

5. エピソード お芋ほり～焼き芋づくり（2歳児）

保育計画の中に5つの力を育めるよう取り組む、当園で作成した0から2歳児の保育計画です。

	0歳	1歳	2歳
食と健康	生活リズムを身につけ、食事を楽しみにする	おなかやすく生活リズムを作り、食事を楽しみにする	しっかり活動し、いろいろな種類の食べ物、料理を味わい、健康な体をつくる
食と人間関係	安定した人間関係の中で、安心して食事をする	一緒に食べる喜びを体験し、自分で食べようとする	楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理する人に関心を持つ
食と文化	手やスプーンを使って食べようとする	スプーン、フォークを使い自分で食べようとする	食事のマナーを身につける
命の育ちと食	植物や食材を見たり、触れたりして、興味を持つ	絵本を見たり、野菜に触れたり、収穫の様子を見たりして、食べ物に興味を持つ	食材の収穫、調理を通し、食材に興味を持つ。いろいろな食材を進んで食べる
料理と食	いろいろな食材を体験し、食に興味を持つ	いろいろな味や食材を体験し、食に興味を持つ	クッキングなどで作って食べる楽しさを感じる

私たちが目指す子どもの姿を食育指針の項目を踏まえながら、活動にどう結び付けていくか、当園の援助・内容と実践とを関連させながら報告します。

「第63回全国私立保育園研究大会」（札幌大会）に島根県私立保育園連盟からは、「ひろせ保育園」が発表を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が中止となりました。とても残念なことであり、この度「ひろせ保育園」さんにご協力いただき、「私保連しまね」No.49号に発表内容を集約して掲載することに致しました。

「豊かなくらしを営める力を育てよう」 — 体験を通して育む「こころ」—

島根県安来市 ひろせ保育園

1. はじめに

当園は自然豊かな山々や田畑に囲まれ、四季折々に作業する地域の人々の姿を、子どもたちはいつも間近に見ながら日常を過ごしています。そして、その姿が子どもたちの心にいつまでも残るような環境にあります。

園庭に隣接する広い畑は、春になると一番最初に咲くオオイヌノフグリを見つけっこして、その発見を友達と知らせあって喜んだり、野草のオオバコでの草相撲、カラスノエンドウでのピーピー笛作りなどの楽しい遊びの場です。また、たくさんの小動物との出会いの場として、そこで捕まえた生き物を見せ合ったり、触ったり、図鑑で調べて飼育するなど、生き物を囲んだ子どもたちが、それぞれに感じた思いを素直に表現しています。

菜園活動では、子どもたちも一緒に栽培に関わり、野菜の生長をいつでも確かめることができます。季節の移り変わりとともに、畑の風景や野菜の姿が変化していくことを身近に感じながらの日々を過ごしています。

家庭においては、ほとんどが核家族で、近い距離に祖父母が居住している割合が高く、保育園への送迎、親に代わっての食事の提供等、子育ての協力をしてもらっていますが、子どもの叱り方は？子どもとの遊び方は？医療機関受診のタイミングは？等の相談から子育てに自信が持てないでいることも伝わってきます。

2. とりくみ（考え方と実践）

子どもの姿で気になるのは、自分に自信が持てず、人前で失敗したり、間違えたくなくて、「〇〇していいですか？」「これでいいですか？」等の保育士に確認してからでないと活動に取り組めない様子や、トラブルの場面では、自分の意見を言い出せず、あきらめたり、保育士に頼るなどの姿が見受けられました。

その姿から私たちは、一人ひとりの思いをしっかりと受け止めていたのだろうか、安心して思いが出せるように支えていたのだろうか、また、その思いを大切にしながら子ども同士のかかわりを適切に支えていたのだろうか、と振り返りました。

そこで、まず子どもの発達とは、今、ここにある生活・活動そのものととらえなおし、それ自体を大切にしていくことにしました。活動の結果の質にこだわるのではなく、実際にこどもが取り組んでいる過程がどれだけ心動かされる活動であるかを大切に見ていくことにしたのです。それは、その子の思いに寄り添い共感し、同じ視点に立ってやろうとしていることを見ていくことです。その過程で、丸ごと自分を理解されていると子ども自身が実感できた時に、安心して自分の思いを表出しながら、身の回りの出来事や、取り巻く人と積極的にかかわろうとしていくのではないかと考え、主題を設定しました。

当園の特徴である、恵まれた身近な自然環境と食に関わる活動を、保育の中で十分に生かして、子どもたちの豊かなこころの育ちを支えることに取り組みました。



ふりかえり

「となりに座りたい」「手をつなごうよ」と友だちとのかかわりが楽しくなってきた、友だちが好きと思い始め、自我が広がっていくこの時期に、その子ならではの表現や発想を他児に知らせることで、自分とは違う存在である友だちに気づいたり、あこがれも持つのではないかなと思う。時には、思いが違うことでぶつかり合って、トラブルになることもあるが、一人ひとりの思いをしっかりと受け止めながら、子ども同士のかかわりを支えた。

芋ほり、焼き芋クッキングを通して、友だちと同じ活動をする中で、見せ合ったり、言葉を変えながら友だちと関わる楽しさも感じてくれたように思う。友だちに対する思いやあこがれを持って同じようにしてみたい気持ちを大切に活動を見守り、「上手にできたね」「頑張ってるね」と満足感が味わえるようにすることで、その喜びが新しい意欲へつながっていくのではないかな。

6. 連携として心がけ、工夫したこと

①職員間の連携

保育そのものが食育とつながっていて、食育が保育の基盤にもなっているから、両者が連携を図り、共通意識を持つようにしている。子どもたちの姿にしっかり目を向け、主体性を大切にしながら、柔軟に対応することで、充実した計画づくり、そして、実践を行っている。

②保護者と職員の連携

1. 笹まき作り、もちつきなど、行事に祖父母、両親に参加の場を設ける
2. 子どもたちの食に関する栽培活動に関心を持ってもらう。
3. 個人懇談やアンケートを通して、食生活や生活リズムを整えるための助言、支援をしていく
4. 園だより、クラスだより、ドキュメンテーション、連絡ノートを通して、子どもの姿や思いをていねいに伝える
5. 家での手伝いの大切さを伝える

7. まとめと考察

○子どもの興味や気づき、思いに寄り添い、その子なりの表現を大切に、同じ視点に立ってやろうとしていることを見ていく中で、「本当だ」「すごいね」「頑張ったね」と共感し、認めていくようにした。また、一人の発想や表現がクラス全体に伝わるようにすることで、まわりの子の新たな気づきとなった。その繰り返しの中でみんなの思いが一層深まり、いろいろな場面で思いがつながり広がっていった。そのことが、自分と異なる思いや考えに触れ、衝突や葛藤を経験しながらも折り合いをつけた、協力しながら主体的に取り組む姿になっていったように思う。また、友達とのつながりを喜び、いきいきと生活を営んでいく中で、意欲的にいろいろな問題に取り組み、他のことや人のせいにしないとか、どう立ち向かっていくかという姿勢や、簡単に答えが出ないことにあきらめず取り組む姿勢、仲間と一緒に問題解決しようとする等のコミュニケーション力が育ったのではないかと考える。

そして、人や自然としっかり関わる経験から培った力が、豊かな暮らしを営める力につながっていくのだと考えた。

○園での食に関わる活動が、家庭においても親子で取り組む活動へとつながり、思いを共有することになった。連絡ノートには家族のだんらんの機会が増えたという嬉しい報告もあった。家族のだんらんは大人の考えに触れたり、暮らしの工夫を知る機会にもなり、また、国語力が育つ原点ととらえ、園での一人ひとりのエピソードや、成長した姿などていねいに伝えることで、家庭での楽しいだんらんが増えてほしいと思う。

○2歳児ならではの表現や気持ちに共感しながら、友だちとのかかわりを支える

子どもの姿と保育士(T)のかかわり	※保育者の思い ☆保育者の願い [] 考察
10月 芋掘り 近くの畑に芋ほりに出かける。小さな手で土をかき分けて芋を出したり、土の中から顔を出した芋をつかんで引っ張る。 「先生、みてーあったよー!」 「僕のこんなにでっかい」 「こんな形しとる」等と、自分の手で掘ったうれしさを保育者や友だちに言葉や表情で伝える。 	芋ほりに、より楽しんで取り組めるよう、手遊びや絵本等で子どもたち一人ひとり興味・関心を持てるよう、取り入れていたこともあり、どの子もとてもしっかり表情だった。 ※収穫した芋の形、大きさ、重さを確かめ、友だちと嬉しそうに見せ合い、比べっこする子どもの姿から、体全体(五感)で掘りたての芋を感じる体験をしているんだな。 
11月1日 焼き芋クッキング クッキングに使用する材料や道具を子どもと一緒に確認した後、保育者がやり方を見せる。その中で、新聞をつかうことを話しているとき A児「なんで新聞使うの?」と不思議そうに聞く T「新聞とアルミホイルと一緒に芋を包んであげると、ほくほくの美味しい焼き芋ができるんだよ」 A児「ふーん」 	☆保育士や友だちのすることを見て手伝いたがったり、同じことをしたがる子どもたちのやりたい気持ちを大切に活動に取り組む。 ☆数日前に体験した芋ほりで掘った芋を使っのクッキングを通して、つめたくてかたかったお芋が、あったかくてほくほくのやわらかいお芋に変化していく様子を見て、自分たちで手間をかけて出来上がったお芋の味をしっかりと味わってほしい。 ☆出来上がりを楽しみに、クッキングに取り組んでほしい。 子どものなんで?と思ったことに正しく答えてあげられたのか、保育者自身の知識不足を感じた。
さつまいもを包みながら B児「お芋がかくれんぼしたよー。ほら。」と保育者や友だちに見せる。 T「Bちゃんのお芋、かくれんぼしたんだって。Cちゃんのお芋もかくれんぼできるかな?」と、B児の“かくれんぼ”という表現を他児にも伝える。 「かくれんぼしたー」「じょうずにかくれんぼできた」と、他児もかわいらしい表現をすぐに真似て、楽しそうに繰り返した。B児の「かくれんぼ」の表現をヒントにどの子も「かくれんぼしよ」と言いながら、指先を器用に動かして、上手に包むことができた。	☆「かくれんぼしたね」と、B児の感じた思いに共感し、他児にも知らせることで、包むことが難しく困っている子どもにも、もう一度やってみようと思って取り組んでほしい。 
C児「やってあげようか?」 と、困っている友だちに声をかける D児「うん…どーするだあ?」 C児「お洋服着せてあげるみたいにゆーっくつかぶせるよ。ひっぱらんよ」 T「Cちゃんに手伝ってもらってDちゃんもお芋をつつめて喜んでいたね。手伝ってあげてよかったね。」 困っている友だちに気づき、声をかけ、手伝ってあげたC児の姿もしっかり認める。 「Dちゃん、Cちゃんに手伝ってもらってうれしかったね」 D児「うん。ありがとう」	困っている子どもに、保育者がすぐに声をかけるのではなく、“待つ”ことも大事だなと思った。 ※C児は手伝ってあげたことが嬉しそうだ。自分でできることや友だちにしてあげることが増えることで自信となり、意欲につながっていく。 ☆クッキングを通して、子ども同士のつながりや言葉のやりとり、子ども一人ひとりの新たな成長を見ることができた。 Tが仲立ちとなり、友だちのことを気にしたり、心をかけてもらう経験を重ねられるようにすることで、友だちとのかかわりがより深まるようにしたい。

実際の実践事例は、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児でしたが、紙面の都合上2歳児のみ掲載させていただきました。

フレッシュ先生の紹介

第3ブロック

江津市/うさぎ山こども園

右田 優菜 先生

今年度より「うさぎ山こども園」の職員として仲間入りした右田先生は、0、1歳児クラスの担任をしています。

保育士1年目ですが、先輩先生たちの保育をよく観察し、自分の保育に取り入れています。また、対応に困ったときには相談し、よりよいかわり方を考えられる先生です。

0、1歳児は、言葉でうまく伝えられない年齢ですが、子どもの仕草や表情から気持ちを読み取り、その姿をととても楽しそうに話してくれます。

これからも笑顔を絶やさず、お互い助け合いながら一緒に保育士という仕事を楽しんでいきましょう！よろしくね、右田先生!!

(保育士 浜崎 祥子)

子どもの頃から目指していた保育士として働けることがとても嬉しく、毎日楽しく働いています。精一杯がんばります。



第1ブロック

松江市/愛恵保育園

草間 佳子 先生

愛恵保育園創立50周年の昨年入職されたのは、当園と同じ年齢の草間佳子先生です！

15年前、ある本に紹介されていた児童憲章を読んだ時、理想と現実のギャップにショックを受け、子どもに関わる仕事がしたいという思いを持ったそうです。それから十数年後、長年してきた美容師の職を辞め保育者養成校に入学、保育士に。

1・2歳児の担任として奮闘する日々は、上手くできない事ばかり…と笑いつつ『保育士に向いているか否かではなく、やるかやらないか、出来ないからこそやり続けたい』とキッパリ。子ども達が『今日来てよかった』と思えるような保育がしたい、という先生の願いは必ず実現すると信じて心から応援しています。

(主任保育士 南場 佳美)



子ども達が笑顔で過ごせるように頑張ります！

第4ブロック

浜田市/ひかり保育所

原田 沙織 先生

浜田ひかり保育所のフレッシュ先生、原田沙織さんを紹介します。沙織先生は我園の卒園児でもあり、保育ボランティアや保育実習を経てこの春保育士として帰って来てくれました。

幼い頃の笑顔を思い出し「さおちゃ〜ん」と思わず呼んでしまう職員も・・・

絵を描くことが大好きで、イラストを描いた手作りおもちゃは子ども達に大人気です。

また、0歳児クラスの担任として優しい語りかけや、抱っこ、おんぶをして若い力を発揮してくれています。

これからも素敵な笑顔を絶やさず、先輩保育士からたくさんの事を学び、共に育っていくよう職員一同応援しています。

(副主任 山本 敏枝)



先生方から多くのことを学び、出来ることが増えるよう一生懸命頑張ります。

第2ブロック

出雲市/西園保育園

柳楽 駿介 先生

保育士2年目の柳楽駿介先生の紹介をします。

今年度は4歳児クラスを担当しています。体を動かすことが大好きな先生は、子どもたちと鬼ごっこをしたり、

水鉄砲で水のかけあいをして全身びしょりになったり、何事にも全力で遊んでくれます。子どもたちもそんな先生が大好きです。先生は、当園の卒園児でもあります。学生の時に実習生として久しぶりに再会したときは、成長した姿と、保育士になりたいと夢を持っていることにびっくり！私たち職員も、教え子と一緒に仕事ができる喜びを感じ、これからも一緒に保育を楽しんでいこうと思います。

(主任保育士 山本 貴子)

保育実習では、子どもたちが親しみを持って接してくれてとても嬉しかったです。また、お世話になった先生たちと一緒に保育士として働きたいとそのとき心に決めました。子どもたちとの関わり方で日々悩むこともありますが、持ち前のパワフルさを活かして笑顔あふれるクラスづくりをしていきたいです。





地域と関わりながら食体験

社会福祉法人 みかわ 安城保育園 主任保育士 吉中 馨

安城保育園は、浜田市の山間部にある小規模保育園です。保育園の食育活動の取り組みの中で、自然を生かした食体験を通して、五感を活かせる保育を行っています。地域の方のご好意により、春の竹の子ほりから始まり、梅の収穫体験や、園内の「にこにこ畑」での夏野菜作りなどで、季節の食べ物に触れる機会を沢山持っています。四季のいろいろな体験を通して、土いじりで虫を見つけ観察したり、野菜の栽培や関わりでの不思議に気付いたり、どんな事にも興味を持てる子どもたちに育っています。初夏になり、子どもたちが楽しみにしている梅干し作りの時季を迎え、お弁当を持って梅の収穫体験に出かけました。梅畑のおばあちゃんと一緒に収穫「こんなに大きい梅が一杯あるよ

「あーいい匂い」と言いながら収穫を楽しみました。梅を持ち帰ると梅干し作りが始まります。へた取りでは、「梅さんのおへそは、取ろうやー」「どこにある？」「見つけたよー」「取れたー！」と言葉が飛び交い一生懸命作業する姿は、真剣そのものです。その後梅の塩づけ、しそ揉み、土用干しとまだまだ出来上がるまでには時間がかかりますが、梅干しが出来ると、給食のメニューに取り入れて貰い、「あ、みんなで作った、梅干しが入ってる」「ちよつと酸っぱいね」「でも美味しいうねー」の子どもたちの声がクラスに響きます。自然の中で遊び学ぶ体験が少なくなりつつある現代ですが、地元と繋がり豊かな地域で出来る経験を通して、ふるさとを愛するやさしい気持ちの持てる子どもたちを育んでいます。

こんな活動やっています

新型コロナウイルスに負けない保育・教育を育む

～ 子どもたちがのびのびと遊ぶことができる環境の創出 ～

社会福祉法人 あすなる会 あすなる第2保育園 園長 竹内 寛和

あすなる第2保育園は、定員60名で平成19年2月1日に開園し、令和2年度は13年目を迎え、定員220名で運営しています。これまでに大規模修繕工事1回・増築工事2回行いました。増築工事2回目は、待機児童の受け入れと更なる幼児教育の向上を図るために、3階建ての幼児教育棟を増築しました。さて、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスは、世界の様々な生活機能を麻痺させました。福祉の業界・取り分け保育所(園)にも様々な対応が求められました。園児の受け入れ体制、保育・教育の実施方法、感染症対策・対応、保護者対応、スタッフの安全や雇用保障への対応等多くの対応に迫られました。そのような状況の中、当園においては、当園自粛期間である4月11日から5月17日までの登園自粛率は平均35.2%であったが、毎日120名以上の園

児を預かっていました。感染症への対応・対策を講じながらも子どもたちがのびのびと遊ぶことができる環境を心掛けました。多くの心掛けの中でも、幼児教育棟3階の多目的室(幼児教育向上プログラム室)では、子どもたちの健康増進活動として、ボルダリング・スラックライン・卓球・サーキット運動・器械体操・ボール運動等、子どもたちにとって体力向上となる各種プログラムを実践しました。園での緊急事態対応・自然災害時対応は避難確保計画やBCPに基づいて対応していますが、感染症対策については、各ウイルスに対する、より個別的で柔軟かつ幅広い対応が求められます。今後も様々な「変化」に対応すると共に、子どもたちがのびのびと遊ぶことができる環境の創出を心掛けていきたいと思っています。



新鮮な商品に安心・安全をそえてお届けします
乳製品 無添加の菓子 他

島根中酪

島根中酪株式会社

本社
出雲市平野町302
電話(0853)22-5300(代) FAX(0853)25-3780

松江営業所
松江市嫁島町8-5
電話(0852)21-5472

(有)隠岐中酪
隠岐の島町下西谷田103-18
電話(08512)2-2008 FAX(08512)2-2012

西部中酪牛乳販売(有)
益田市安富町1877-1
電話(0856)25-2008 FAX(0856)25-2334

ICT関連は私たちにお任せください！

保育料無償化に伴い煩雑となった事務作業を効率的に！

新登降園・請求システム

フェリカ機能のカードやスマホをタッチするだけ

選べるお支払い方法

保育料無償化対応

開発・販売 株式会社チャイルド社

保育・園児管理システム

園で役立つ機能満載！忙しい先生を応援するためのシステムです。

- 保育計画
- 施設管理
- 園児管理
- 保育経過
- バスコース管理

CHAPPY 栄養計算システム20

さらに使いやすくなりました！

食事摂取基準2020対応

すくすく2020

園独自の給与栄養目標量を算定

編集後記

会員の先生方にはいつも「私保連しまね」をご愛読いただきありがとうございます。また、第49号発刊に向けてご執筆のご協力をいただいた先生方には心よりお礼申し上げます。有難うございました。

さて、今世界中の人々が「新型コロナウイルス」の言葉を耳にすることが日々当たり前となり、1日でも早いワクチン開発を心待ちにしてしておられる方が多いのではとっております。

そんな中、自分たちにできることは、「自分が感染しないこと」「感染すると周りの人に迷惑がかかる」と言うことをしっかり頭に入れ、“手洗い”“マスクの着用”はもちろんのこと“3密”“ソーシャルディスタンス”などに気をつけ感染予防に努めることだと思います。

この度の「新型コロナウイルス」発症により、今までは当たり前として過ごしていたことが一変して出来なくなり、先生方の保育所（園）でも感染拡大予防のためたくさんのご配慮にご尽力をつくされ、見えないウイルスと共に生活しながら「新しい生活様式」を作られていることと思います。

世の中が、IT化の普及により便利な世の中になっておりますが、子どもたちには便利なことに慣れることなく、「人と人と触れ合うことで温かさを感じることを忘れないでほしい」、そして、可愛い子どもたちや先生方に笑顔がたくさんみられることをと心から願っております。

(川本北保育所 戸田久美子)

新加盟園の紹介

出雲市
浜山あまつひ保育園
園長：古川 享子
定員：60名
設置・経営主体：
社会福祉法人
浜山福祉会

園庭と園舎の一体型の建物を目指して出来上がったのが、この写真の浜山あまつひ保育園です。

「あまつひ」は、古事記から引用し、“太陽”という意味です。
令和2年4月1日に浜山福祉会の3園めとして開園し、お仲間入りさせていただきました。

写真の坂を登りきったところは「やっほーの丘」とネーミングしてあり、ここから北山にむかって、毎日全員で「ヤッホー、ヤッホー」と・・・

すると心が解き放たれ、なんだか、元気もりもり、勇気りんりん。

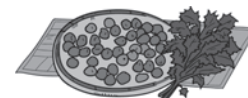
楽しく、愉快地、心豊かに、おもしろく、ためになるような日々をめざしています。どうぞよろしくお願いいたします。



子どもたちのかわいいつ・ぶ・や・き

梅干し作りをしたとき

梅の入った瓶に梅酢があがっていきました。そこへみんなで塩もみをした紫蘇を投入！少しずつ色が染まっているのをじっと見つめ一言「梅干しさん がんばっているね」
あの時頑張った梅干しは天日に干されどんどんおいしくなっていきますよ！！



居残り保育時間のとき ふと窓から見える空を見上げて

A君 「あっ！アイスクリームの雲だ～」と発見
B君 「こっちはゴジラのくもがあるよ！」とB君も発見。
二人ともしばらくはファンタジーの世界を満喫、楽しんでいました。



友だちと一緒にドミノで遊んでいたとき

T先生「わあー高くなっているね～」
Sちゃん「長くできたよ～」
T先生「だんだん 大きくなっているね～」
Sちゃん「私もお姉ちゃんになったよ!!」
大きいと言う言葉を聞いて自分の身に振りかえったのかもしれないね♡



ダンゴムシ

Yちゃん「せんせい！いつもダンゴムシがいるね!!」
S先生「???」
Yちゃん「目の中にダンゴムシがいるよ!!」
S先生は腫がとてもきれいなのです。



40代前半の職員に4歳児が

Kちゃん「先生っておばちゃんなの？」
S先生「う～～ん」
Kちゃん「だって 白髪があるもん」
満面の笑顔で答えたKちゃんでした。



園および園児をさまざまな リスクからサポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。

公益社団法人全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」など、
園経営におけるリスクに関する保険をラインナップ
しています。また、それらを総合的に補償する
セットプランもご用意しております。

やくいんのほけん

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクを補償します。



上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

〈引受保険会社〉東京海上日動火災保険株式会社 担当課:公務第二部 文教公務室 TEL:03-3515-4134

連絡先



公益社団法人全国私立保育園連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育園連盟推奨(総代理店)

導入費用
無料



きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは
伝えきれない園での豊かな活動、
子どもたちが自ら学び・育つ姿を
「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大 9 カ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました！

ひと月
あたり **5,000 円** (税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金に変更になる可能性がございます。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、太田>

19-T07380 2020年3月作成



保育リボン

わたしたちは子どもの育ちを支え、
みんなの笑顔があふれる社会を目指します。
(全国私立保育園連盟)



私保連しまれNo.49

発行日／令和2年(2020)9月10日

発行者／会長 吉田 哲明(くもぎ保育園)

発行所／島根県私立保育園連盟

編集者／青木 豊美・戸田 久美子(広報部)

